

アセンブリ教育実施要領



アセンブリ教育センター長
大槻 眞嗣

アセンブリ（Assembly）は建学以来続いている、人文・社会科学（人間性の涵養）および自然科学（医学・医療）を含む特別教育活動であり、師弟同行、全員集合を意味しています。現在、アセンブリ教育（Assembly Education）として保健・医療・福祉における多職種連携（協働）を実践するための基盤づくりを目的とした**多職種連携教育（Interprofessional Education）**（図1）と位置付けています。

アセンブリ教育において、最も大切なのは「他者のリスペクト（尊重）」です！

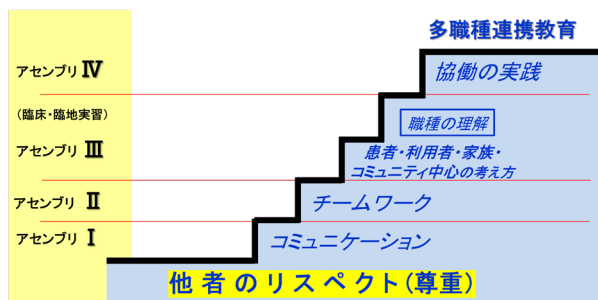


図1. 多職種連携教育

全学生が多職種連携に必要な能力として「コミュニケーション」（1学年～）、「チームワーク」（2学年～）、「患者・利用者・家族・コミュニティ中心の考え方」、「職種理解」（3学年～）を段階的、系統的に身につけます（図1）

希望する学生（最終学年）が保健・医療・福祉の現場における多職種連携（協働）を実践します（図1）



*防災士講習: アセンブリIIの単位取得条件

図2. アセンブリ防災と多職種連携教育

2023年度より、災害時における社会貢献ができる人材を育成する授業も追加します（図2）

全ての学生が防災士養成講習を受講し、防災の知識を習得します。学部・学科の垣根を超えた防災学修（アセンブリ防災）（図2）を通して、避難所での支援と被災住民の支援について学びます。

1. アセンブリ教育

アセンブリ教育は Interprofessional Education（多職種連携教育、専門職連携教育）である。身につける力、概要等については、アセンブリ教育要綱（別紙）に記載されている。

2. 単位認定と卒業要件

アセンブリ教育は、建学の理念に基づいて実施される全学的教育活動である。2022年度以降の入学者を対象として、アセンブリⅠ（Interprofessional Education Ⅰ）、アセンブリⅡ（Interprofessional Education Ⅱ）及びアセンブリⅢ（Interprofessional Education Ⅲ）は1単位（必修）、アセンブリⅣ（Interprofessional Education Ⅳ）は1単位（選択）とする。但し、2023年度のアセンブリⅢは卒業要件とするが単位認定しない科目とする。また、アセンブリⅣは卒業要件とせず、希望者のみを対象とした選択科目とする。なお、卒業に必要な履修時間数は別に定める。

※注意事項

防災士養成講習会の受講を修了していない場合、2024年度以降におけるアセンブリⅡの単位が取得出来ない。なお、医学部医学科および保健衛生学部看護学科は2024年度に講習会を受講予定。

3. 休講及び補講

休講については、アセンブリ教育センターからの掲示で通知する。但し、天候不良等に伴い、突発的に休講となる場合については、アセンブリⅠ～Ⅳ担当副センター長の判断にて、掲示以外の方法で緊急連絡する場合がある。補講については、アセンブリ教育センターで検討・審議のうえ決定する。

4. 担当教員

専任教員はアセンブリⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、戦略企画、アセンブリ防災（2023年度～新設）の何れかに所属し、アセンブリ教育活動を支援する。但し、診療などに支障が出る場合はこの限りではない。

5. 概要

Ⅰ) アセンブリⅠ（Interprofessional Education Ⅰ）

1年次に行うアセンブリ教育活動である。グループワークを中心とした体験学習の活動により、「コミュニケーション」を学ぶ。

<アセンブリⅠで身につける力>

【基本姿勢】

- ・他者を尊重（リスペクト）できる。

「コミュニケーション」

- ・コミュニケーションスキル（傾聴、質問等）を理解し、使用することができる。
- ・自己の言動がもたらす他者への影響を省察することができる。

<活動方法>

1) 活動内容

①講演会

- ・アセンブリ講演会（医療と献体。特別講演が追加される場合がある。）
- ・その他（全体オリエンテーション、アセンブリⅡ活動報告会）

②講習

- ・オンライン会議ツール（Microsoft Teams）を利用したオンライン授業・グループワークと対面によるグループワークを併用して実施する。
- ・グループワークを通して「他者をリスペクトする」「傾聴する」「質問する」というコミュニケーションの基本を学ぶ体験学習。

- ・2年次以降のアセンブリ活動に向け、チーム作り・チームでの活動の基本について体験する。

2) 実施方法

①授業形態

- ・「自分を知る」「他者を知る」「見る」「聴く」「質問する」「チームを作る」等をテーマとしたグループワーク中心の体験学習を行う。
- ・学生はファシリテーター（教員）の指示により、6から7名の小グループに分かれてワークを実施する。
- ・ワークにおいて自身や他者がとった行動や言動、感じたことなどについて、振り返りを行う。
- ・振り返りの内容について、グループ内もしくはチーム内で共有する。
- ・2年次のアセンブリⅡで「チームワーク」を身につけるための基盤となる「コミュニケーション」を身につける。

②活動時間

- ・活動時間は毎週月曜日3・4限（医学部においては4・5限・6限の午後4時10分まで）とする。

<評価法>

全ての活動の出席および期限内での課題提出を以て評価の対象とする。

提出課題中の記述から、各回テーマごとに定めたスキルについての自己・他者の言動に関する省察の深さを評価する（80%）。

グループ担当のサポート教員によるグループワークの観察から、各学生の積極性や「話す」「聞く」「調整する」というコミュニケーションに見られる他者の尊重の度合いを評価する（20%）。

再試験は到達目標に示した内容を問う問題を出題し、100点満点で出題し、再試験の評価を79点未満に換算する。

〔注意事項〕

- ・アセンブリⅠ（Interprofessional EducationⅠ）は1単位の単位認定された授業である。他学科混成の小グループ学修を行うので、演習であるが、全ての授業に出席しなければならない。
- ・アセンブリⅠは1年次で履修する教科であり、他学年では履修できない。
- ・原則として全ての活動（オリエンテーション、アセンブリ講演会、発表会、アセンブリⅡの活動報告会を含む）への出席及び課題提出を以って評価の対象とする。欠席や未提出課題等がある場合は補講・追加課題を課すことにより評価の対象とする。
- ・休講の決定及びその補講は別に定める。

Ⅱ) アセンブリⅡ（Interprofessional EducationⅡ）

2年次に行うアセンブリ教育活動である。チームとして明確な目標を定め、チームのために行動する。「コミュニケーション」を大切にして、「チームワーク」を学ぶ。コンテンツとして「避難所における貢献ー災害時における社会貢献としてー」に取り組む。

<アセンブリⅡで身につける力>

【基本姿勢】

- ・他者を尊重（リスペクト）できる。

「チームワーク」

- ・チーム内でコミュニケーションを取ることができる。
- ・チームメンバーの関係性の構築・維持・成長に貢献することができる。
- ・チームで解決すべき課題を見出すことができる。
- ・見出した課題に対する解決策を提案することができる。
- ・自己とチーム全体の態度や言動について省察し、改善できる。

＜活動方法＞

1) 活動内容

①講演会

- ・アセンブリ講演会（特別講演が追加される場合がある。）
- ・その他（全体オリエンテーション、アセンブリⅡ活動報告会）

②活動

- ・チーム単位での活動と全体活動は、オンライン会議ツール（Microsoft Teams）と対面によるチーム活動を併用して実施する。

2) 実施方法

①チーム

- ・複数の学部・学科の学生が所属する1チーム8名程度の混成チームを作る。
- ・各チームには担当教員を置き、担当教員はチーム活動のプロセスの支援を行う。所属学生はリーダー、サブリーダー、記録など何らかの役割を担う。
- ・チーム編成は複数の学部・学科混成となるようアセンブリ教育センターが決定する。

②活動など

- ・活動時間は原則として毎週月曜日4限（医学部においては5限・6限の午後4時10分まで）とし、前期（4月～7月）はオンラインで行い、後期（10月～12月）は対面で行う。
- ・活動は基本的にチーム単位で行い、前・後期ともに数回の全体活動を実施することで、チーム活動の振返りを確実にを行い、以降のチーム活動へ繋いでいく。
- ・「避難所における貢献—災害時における社会貢献として—」についてチームで意見を出し合い、合意をしてプロダクトを作り出す。
- ・活動の前期（4月～7月）はオンラインツールを利用して活動計画等の話し合いを中心に、後期（10月～12月）は前期の計画を基に実際に対面による活動を実施する。チーム活動を通して得たものや活動内容についてチームワークを発揮し、まとめを行う。
- ・活動終了後は、成果発表会を行う。
- ・3年次のアセンブリⅢで「患者中心の考え方」を身につけるためのチーム基盤型学習（Team-Based Learning）の基盤となる「チームワーク」を身につける。

＜評価法＞

全ての活動の出席および期限内での課題提出を以て評価の対象とする。

目標に対するルーブリック評価（30%）、振返りレポートの提出（40%）、課題解決における知識を問うテスト（30%）により、総合的に評価する。

再試験は到達目標に示した内容を問う問題を出題し、100点満点で出題し、再試験の評価を79点未満に換算する。

[注意事項]

- ・他学科混成チームでの学修を行うので、演習であるが、全ての授業に出席しなければならない。学年全体で行われるオリエンテーション、アセンブリ講演会、発表会、活

動報告会を含めて、全て授業への出席を必須とする。欠席した場合は補講を受けなければならない。

- アセンブリⅡは2年次で履修する教科であり、他学年では履修できない。
- 休講の決定及びその補講は別に定める。

Ⅲ) アセンブリⅢ

3年次に行うアセンブリ教育である。「コミュニケーション」、「チームワーク」を大切に、「患者中心の考え方」・「職種の理解」を学ぶ。教育技法として、チーム基盤型学習（TBL: Team-based Learning）を採用する。

＜アセンブリⅢで身につける力＞

【基本姿勢】

- 他者を尊重（リスペクト）できる。

「患者中心の考え方・職種の理解」

- 職種間コミュニケーションを取ることができる。
- 患者^{※1} 中心に考えるためのコミュニケーションスキルとチームワークを活用することができる。
- 患者^{※1} を全人的^{※2} に理解し、患者の健康問題を見つけることができる。
- 患者^{※1} の健康問題に取り組むことができる。
- 自職種の職能を説明することができる。
- 保健・医療・福祉における他職種の職能を理解することができる。
- 職種間で協力して、互いの役割を認めて行動することの大切さを理解することができる。
- 自職種の職能を保健・医療・福祉の現場^{※3} で発揮し、事後に省察することができる。

^{※1} 患者：地域においては地域住民、老人保健施設・福祉施設においては利用者となる。

^{※2} 全人的：人（ひと）を身体・心理・社会的立場などあらゆる角度から理解する。

^{※3} 現場：現場でなく、模擬的な場（TBL）。

＜活動方法＞

- 活動時間は年度初めに、日程等が提示される。また、詳しい内容については、学科別に行う事前説明会で説明する。
- 授業形態としては、オンライン会議ツールによるチーム基盤型学習（Team-Based Learning）を採用する。
- 学部・学科の異なる約6名の学生で混成チームを作る。
- 学部・学科の垣根を越えて、チームで「患者中心の考え方」を学ぶ。
- 事前説明会で配布する資料を十分に予習して、授業に臨む。配布資料には、「他職種」の紹介も含まれる。「他職種」についての理解が乏しいと「他学科」の学生との話し合いがうまくいかない。
- 1日目の授業は、事前学習資料の理解度を確認する小テストである i RAT（個人としての準備確認テスト）を行う。その後、同じ問題をチームで話し合って解答する t RAT（チームとしての準備確認テスト）を行う。t RATにより、個人が事前学習を行うことによるチームへの貢献度が明らかになる。その後、チームで応用課題に取り組む。
- 2日目の授業は、引き続き応用課題を行なった後に、次回の授業に備えて予習の役割分担を行う。
- 3日目の授業は、応用課題を行った後に、同僚学生による評価（ピア評価）を行う。
- 4日目の授業は、各学科で振り返りを行う。

- ・アセンブリⅣで実践する**多職種連携（協働）**の基盤となる「患者中心の考え方」、保健・医療・福祉における「職種の理解」を身につける。

<評価法>

全ての活動の出席および期限内での課題提出を以て評価の対象とする。

応用課題の成果物、ピア評価などのTBLにおける評価（80%）、そして目標に対するルーブリック評価（20%）より、総合的に評価する。

再試験は到達目標に示した内容を問う問題を出題し、100点満点で出題し、再試験の評価を79点未満に換算する。

[注意事項]

- ・他学科混成チームでの学修を行うので、演習であるが、全ての授業に出席しなければならない。学科別で行われる事前のオリエンテーションと4日目の振返り、他学科と合同で行われるチーム基盤型学習の3日間における全て授業への出席を必須とする。欠席した場合は補講を受けなければならない。
- ・アセンブリⅢは卒業要件であり、履修を修了していないと卒業できない。
- ・欠席するとチームとしての活動ができないため、特別な事情がある場合を除いて遅刻や早退なく、すべての授業に出席することを修了の条件とする。
- ・休講の決定及びその補講は別に定める。

Ⅳ) アセンブリⅣ

4年次（医学部は6年次）に行うアセンブリ教育である。アセンブリⅠ～Ⅲで身につけた「コミュニケーション」、「チームワーク」、「患者中心の考え方」、「職種の理解」を活かして、保健・医療・福祉の現場における「多職種連携（協働）」を実践する。

<アセンブリⅣで身につける力>

【基本姿勢】

- ・他者を尊重（リスペクト）できる。

「多職種連携（協働）の実践」

- ・職種間コミュニケーションを取ることができる。
- ・患者^{※1}中心に考えるためのコミュニケーションスキルとチームワークを活用することができる。
- ・患者^{※1}を全人的^{※2}に理解し、患者の健康問題を見つけることができる。
- ・患者^{※1}の健康問題に取り組むことができる。
- ・自職種の職能を説明することができる。
- ・保健・医療・福祉における他職種の職能を理解することができる。
- ・職種間で協力して、互いの役割を認めて行動することの大切さを理解することができる。
- ・自職種の職能を保健・医療・福祉の現場で発揮し、事後に省察することができる。
- ・保健・医療・福祉の現場において、協働する職種間で信頼関係を構築することができる。

^{※1} 患者：地域においては地域住民、老人保健施設・福祉施設においては利用者となる。

^{※2} 全人的：人（ひと）を身体・心理・社会的立場などあらゆる角度から理解する。

<活動方法>

- ・異なる学科の学生がチームを作り、主体的に企画・運営に参画し、活動する。
- ・保健・医療・福祉の現場における多職種連携（協働）に参加する。
- ・問題点を抽出し、その解決方法を考える。

- ・学修した内容を他者と共有し、意見交換を行う。
- ・アセンブリ教育における出来事を省察し、今後の多職種連携（協働）に活かす。

V) アセンブリ防災 (Interprofessional Education disaster prevention)

アセンブリ防災は、防災士養成研修会で学んだ知識をベースとして避難所におけるTKB（トイレ・キッチン（食事）・ベッド）に焦点を合わせ、避難所における貢献を目的にアセンブリ1とアセンブリ2の一部を利用してTKB支援技術を学ぶ。

<アセンブリ防災で身につける力>

【基本姿勢】

避難所においては、被災者の健康を維持するためにTKBが最も重要であることを理解し、その環境を整備するための基本技術を身につける。

<活動方法>

1) 活動内容

① T（トイレ）

避難所ではトイレ環境の悪化が大きな問題であり、排泄物の適切な処理は不快な思いのみならず、感染症やトイレ使用のためらいによる脱水がもたらすエコノミークラス症候群などの健康障害に直結する。避難所において快適なトイレ環境を整えるために、個人用・多人数用トイレの組み立ておよび使用方法を学ぶ。

② K（キッチン：食事）

避難者に暖かな食事を提供するため、防災食の主な種類と特徴、さらに選定のポイントについても学ぶ。防災食の備蓄（必要量）や管理の効率化を学ぶとともに、実際の調理も実施する。

③ B（ベッド）

継続的な避難所生活において、窮屈な環境によるエコノミークラス症候群の防止や暑さ、あるいは寒さの緩和を目的に、簡易ベッドとしての段ボールベッドを作製する技術を身につける。

2) 実施方法

避難所にて使用されるTKBに関する物品を用いた少人数グループによる実技・体験を通して、避難所運営に役立つ知識および技術の修得を目的とする。

① T（トイレ）

簡易トイレの組み立てを行い、模擬排泄物を利用して凝固剤を用いた使用法とその処理方法を体験する。多人数用トイレとしてマンホールトイレの組み立てや使用方法、構造についても学ぶ。

② K（キッチン：食事）

保存期間が長く水やお湯を注ぐだけで簡単に調理ができる α 米を実際に調理し、その食べ方やアレンジ方法を体験する。また、糖尿病などの生活習慣病を持つ被災者を想定して、糖質やカロリーをカットした非常食の調理も実施する。

③ B（ベッド）

異なった種類の段ボールベッドを実際に作製し、実際の寝心地などを体験する。

それにより、避難所の運営・設計計画に重要な段ボールベッドに関する知識・技術を身につける。

<評価方法>

アセンブリ防災は、アセンブリ 1 およびアセンブリ 2 の活動の中で行うため、評価はアセンブリ I およびアセンブリ II の評価に含まれる。